３４mアンテナの現況報告

第１３回技開センター会議資料
１９９８年9月１６日

通信総合研究所 鹿島　川合

反射塗料面が腐食していた副反射鏡の鏡面再処理を行った。再処理前（Ｓ帯 TLNA:15K、Tsys:69K、Ｘ帯 TLNA:14K、Tsys:62K）と同程度（Ｓ帯 TLNA:5K、Tsys:62K、Ｘ帯 TLNA:37K、Tsys:62K）に復旧している。（写真１、写真２）

写真１：吊り上げ中の副反射鏡

写真２：取り付けられた副反射鏡

ＡＺを３６０度回転させたときに一致しない問題はエンコーダー取付部のゆるみと判明した。（写真３）取付部のネジを増し締めしたところ一致するようになった。

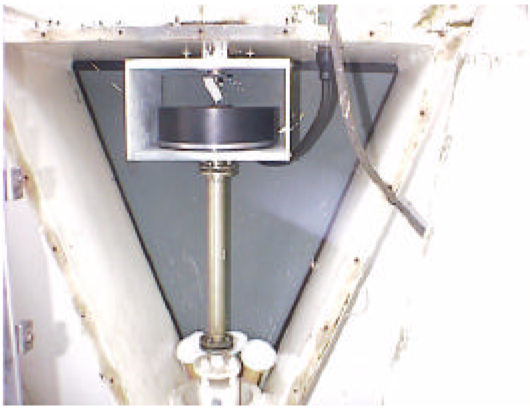

写真３:ＡＺエンコーダー部の取付部を増し締めした

全体的に老朽化が進んでいる。定期保守時に主鏡背面構造材(radial truss)の腐食進行が発見された。簡易な補強と補修塗装を行った。また、配電線の絶縁不良が発生してブレーカーがトリップした。交換工事を行って復旧した。

主鏡と背面構造材を固定する腐食が進んだナットプレート(nut plate)の一部をステンレス製のものに交換した。